

クラス番号	331	担当教員名	伊藤 文人
		他専修学生受入上限	1 名
テーマ	怠け者（マイナーな存在）に優しい社会や大学 ^{ユートピア} のあり方を考える		
著書・論文	「グローバリズム／ラディカルソーシャルワーク／SWAN」金子光一他編著『新世界の社会福祉1 イギリス・アイルランド』旬報社, 2019, pp.85-117.		
研究課題等	（研究テーマ）グローバル時代におけるラディカルなソーシャルワーク——歴史・思想・運動		

ゼミナール概要

キーワード：①マイナー（な存在）；②ユートピア、③現代社会（と大学）／と関わる福祉・仕事・生活

【どんな社会に生きたい／したいか？——私は、怠け者／マイナーに優しい社会や大学がある社会にしたい！】
 私が思うに、日本社会は、「マイナー」な存在（たいてい「怠け者」と形容される）には全く優しくありません。なんだかんだといって「同じ行動」「同じ考え」「同じ将来像」という「同調圧力」ばかりをかけてくるシステムです。「サラリーマン」（「黙って、働け！」）以外の選択肢が事実上「ない」のです。
 「そんな考えや生き方は文字通り息苦しい」「別の社会や仕事のあり方はあるのでは？」と思った学生さんにとって、本ゼミは、「ふつう」を強制する社会への違和感を表明する方法やそれを活かしあうような社会や大学のあり方をテーマに学習しています。内外の事例や実際に「マイナー性」を大切にしながら「生きている」人たちから学んでいます。要するに、これまで「常識」とされていた社会像や生き方像を「マイナーな存在」からの知恵と実践を介して相対化し、「新たな社会」のあり方を展望するという「良識」を「わいわい」楽しむゼミです。例えば、以下のことに共感する学生さんは、ぜひ遊びにきてください。

- ① いつでも学べる、いつでも働ける、出たり入ったりできるもう少し「余裕」のある社会は可能か？
- ② 公務員になりたい理由の一位は「超安定！」のようなのだが、これが第一位になる社会は「よい社会」か？
- ③ 「人の不幸は蜜の味」が蔓延する理由は、他人を蹴落としてでも上にいけという教義の結果なのか？

【学生から見た伊藤ゼミ（2026 年度在籍生より）】

- ・現状の「社会そのもの」を再考したくなった学生には刺さります。「常識」を疑い、「当たり前」を問い直す。そうしたことから、自分の思考の居場所作りをするにはよいゼミです。
- ・授業では（マイナー性を大事にする）多様な外部講師による講義があったり、訪問することを通じて、異なる世界を創ろうとしている人たちからインスパイアを受ける機会があります。ゼミ合宿で BBQ をしたり、夜は自由に語らうことで、グループ活動がさらに深まります。
- ・多様な価値観や考え方に触れられるのがこのゼミのよいところです。「こんな考えもあるのか」と知ることで自分の将来へのヒントを得ることができます。「正解」を探すのではなく、自分らしい選択肢を増やしたい人にはおすすめです。
- ・「なんで？」と世の中にツッコミを入れたい人にはおすすめ。常識に囚われず、ちょっと変わったことを本気でしてみたい人は伊藤ゼミへ！誰も見向きもしないなら、こっちから見せにいい。「そんなのあり？」と思われるようなマイナーな価値観をあえて引っ張り出して「それもありじゃん！」と言わせてみせる、常識のど真ん中ではなく、あえて邪道の道から。そんな革命的なことを楽しみたい人にはおすすめです！

担当教員からのメッセージ



私自身は批判的社会福祉学の研究にコミットしていますが、自身が極めて「マイナーな存在」なので、「出る釘は打たれる」を身をもって体験してきました。しかし「出過ぎる釘は打たれない」と思ってもきました！それは最近の学生さんたちの問題意識とも一致しますね。伊藤ゼミ生は、「典型的な福祉大学生」ではないのかも（笑）「マイナーでいることを怖れていない」「面白いこと」を探している。マイナーは自由と個人を大切にし、社会のマジョリティに安易に溶けないけど、「マイナーならではの生き方」の追求は、社会的連帯とも矛盾しないんです。これを探究するのは、楽しいですよ！大事なのは、社会に対して個人として対峙できる社会的な感性です。「これやりたい、やらない？」があれば、対話して計画・実行、その中で人は成長しま～す！！